

小豆島町内各小学校6年生保護者の皆様
中学校3年生保護者の皆様

小豆島町教育委員会

「令和3年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）」の配布について

師走の候、皆様におかれましてはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日ごろは、本町の教育活動の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、小豆島町教育委員会では今年5月に全国の小学校第6学年と中学校第3学年の児童生徒を対象として実施した令和3年度全国学力・学習状況調査に関する小豆島町の結果ならびに今後の指導で大切にしたいこと等を、国や県の報告書をもとにまとめましたのでお知らせします。

小豆島町教育委員会としては、この調査結果を踏まえ、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に努めておりますので、皆様にはこれまで同様、本町の教育活動に対してご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、今回のお知らせは概要版であり、詳細版については、小豆島町ホームページ上にて公開しておりますので、ご参照ください。また、全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。

令和3年度全国学力・学習状況調査と今後の指導について（概要版）

1 調査の概要

（1）調査の目的

義務教育の機会均等維持とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証サイクルを確立する。

（2）調査の対象

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

（3）調査事項

- ① 教科に関する調査
国語、算数・数学
- ② 質問紙調査
児童生徒に対する調査および学校に対する調査

（4）調査実施日 令和3年5月27日（木）

（5）調査を実施した学校、児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 96人
- ② 中学校調査 1校 80人

2 調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・「同じ」

（1）教科に関する調査の全体的な状況

- ① 小学校
 - 国語、算数・・・全国（公立）の平均正答率を上回った。
- ② 中学校
 - 国語・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ。
 - 数学・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。	○スピーチの構成を考える時には、まず、相手や目的を意識して話の中心を明らかにし、その後、事実と感想、意見を区別したり、説明を加えたりするなど構成を工夫する。考えた構成を交流する場を設ける。
	○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える。	○自分の考えを書く時には、まず、自分が主張したいこと、それを支える理由や事例を明確にし、その上で、理由や事例を文章の中でどのように配置すれば効果的に伝わるか考えることができるようにする。
	○目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける。	○文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのか明らかにした上で、文章と図表などの関係を捉えて読むことができるようにする。日常生活でもそれらを意識し、新聞や本を読むよう促す。
算数	○複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や加法性を基に捉え比べることができる。	○ある図形を分割して並び替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにする。
	○速さを求める除法の式と商の意味を理解している。	○速さを比べる際には、道のり(例: 1 km 当たり何分)と時間(例: 1 分間当たり何 km)のどちらを単位量として設置しているかについて考え、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにする。
	○データを二次元の表に分類整理することができる。	○目的に応じて集めたデータを二つの観点から分類整理できるように、データを二次元の表に分類する活動や、作成した二次元の表を読み取る活動を取り入れる。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。子どもたちが学校で学んでいることに関して、ぜひ、楽しく子どもたちと話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率(問題に解答しない割合)は全国(公立)平均を下回った(無回答は少なかった)。

今回、国語14問、算数16問中、無回答率が全国(公立)平均を上回ったのは1問であり、児童が粘り強く問題を解いていることが伺える。ただ、児童質問紙調査の「解答時間は十分でしたか」の設問について、足りなかったと答えている児童が全国(公立)平均を上回っていた。普段の学習から解答時間を設定し、限られた時間の中でも力を発揮できるよう取り組んでいくことも大切である。

(4) 質問紙調査の状況<○>と今後の指導で大切にしたいこと<☆>* ()内は全国と比較した本町の肯定的回答

自尊意識について

- 「自分にはよいところがあると思うか」(全国を下回った)
- 「将来の夢や目標を持っているか」(全国を上回った)
- ☆児童が自己発揮できる場を多様に設定し、プラスの声かけを行う。

学習に関する関心・意欲

- 「○○の勉強は好きか」(国語、算数ともに全国を下回った)
- ☆教科への興味・関心を高めるために、自分で考え、取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行う。

情報教育について

- 「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」(全国を上回った)
- ☆児童のICT機器の活用技能は飛躍的に伸びている。情報モラル教育を進めながら、今後も、授業で効果的に活用していく。

家庭における学習習慣等

- 「計画を立て勉強しているか」(全国を下回った)
- 「1日当たりどれくらい勉強するか(2時間以上)」(全国を下回った)
- ☆小豆島町の児童は、ゲーム等の時間が長く、読書や運動の時間が少ない傾向にある。将来の目標に向かって学習時間を含め、下校後や休日の過ごし方を家庭で話し合う機会をもつことが大切である。

学校の体制

- 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」(全国を上回った)
- 「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取り組みを行ったか」(全国を上回った)
- ☆今後、より学習意欲の向上を図る授業実践等を行うとともに、児童一人一人を大切に生徒指導を行っていく。

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える。	○読み手は、書き手の目的と意図を理解し、単なる印象ではなく具体的な部分や事柄を取り上げて助言する。書き手は読み手からの助言を踏まえて自分の文章の良い点や改善点を見いだせるようにする。
	○文脈の中における語句の意味を理解する。	○文章を読んで新しく出合った言葉を複数取り上げ、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりするなどを通して、話や文章の中で使うことができるようにする。
	○文脈に即して漢字を正しく読む。	○中学校修了までに小学校で学ぶ1,026字に加え、常用漢字の大体を読む必要がある。教科書を読むことや読書を通して、意味や用法を理解しながら、漢字の読みの習熟を図っていく。
数学	○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。	○事柄や一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにする。説明を洗練させていく活動を取り入れる。
	○ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。	○条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるようにする。
	○相対度数の必要性和意味を理解している。	○相対度数を用いると大きさの異なる集団の階級ごとの比較がしやすくなることを学習することを通して、相対度数の必要性を実感できるようにする。

学力向上のためには、学習を習慣化していくことが大切です。小豆島町の子どもは、スマートフォンやゲーム等の利用時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるので、下校後や休日の時間の使い方を家庭でも話し合ってもらい、目標に向かって計画的に学習を継続していくと伸びにつながります。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。小さな伸びを認めていくことで、継続の意欲も高まります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率（問題に解答しない割合）が全国（公立）平均を上回る問題が多かった。

無回答率は全国平均と比較すると多い傾向にあり、特に「説明する」「自分の考えを述べる」設問については、無回答率が高くなっている。授業において自分の考えを説明したり、みんなで説明を練り上げる活動を取り入れたりしていく。また、長文の問題が多いため、問題を読み解く力が必要になる。読む力を身に付けるとともに、各教科においても長文の問題を解く機会を増やしていく。

(4) 質問紙調査の状況<○>と今後の指導で大切にしたいこと<☆>*（ ）内は全国と比較した本町の肯定的回答

自尊意識について

- 「自分にはよいところがあると思うか」（全国を上回った）
- 「将来の夢や目標を持っているか」（全国を上回った）
- ☆生徒の自己有用感を高める取り組みを続けるとともに、互いの良さを認め合う仲間づくりを行う。

学習に関する関心・意欲

- 「〇〇の勉強は好きか」（全国を国語は下回り、数学はほぼ同じであった）
- ☆「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。

情報教育について

- 「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」（全国を上回った）
- ☆生徒のICT機器の活用技能は飛躍的に伸びている。今後、プログラミング教育等、問題解決・探究における情報活用能力を育てるとともに、情報モラル教育も進めていく。

家庭における学習習慣等

- 「計画を立てて勉強しているか」（全国とほぼ同じ）
- 「1日当たりどれくらい勉強するか（2時間以上）」（全国を下回った）
- ☆キャリア教育を充実させ、将来に向けて興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって、主体的に学習する習慣を付ける。授業で学習したことを活用する課題を出す等、家庭学習と学校での学習を関連付ける。

学校の体制

- 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」（全国を上回った）
- 「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取り組みを行ったか」（全国を上回った）
- ☆今後も、学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うとともに、生徒一人一人を大切にしたい生徒指導を行っていく。